

9. ボランティアファンド
学生チャレンジ賞
(育成・支援プログラム)

「ボランティアファンド学生チャレンジ賞 2015」受賞企画

本学では、「明学グッズ」の本体価格の10%を積み立てて、学生のボランティア活動支援に活用する「明治学院大学ボランティアファンド」を2007年度に開始した。このファンドを原資とし、明学生の主体的なボランティア活動を支援するのが「明治学院大学ボランティアファンド学生チャレンジ賞」である。

2015年度は「社会課題にチャレンジ！」をテーマに募集し、以下のプロジェクトが採択された。

2015年度受賞企画

プロジェクト名	団体名
学生による災害復興支援活動の指針を伝承する冊子の作成	明治学院大学ボランティアセンター 「Do for Smile @東日本」プロジェクト 明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム

「ボランティアファンド学生チャレンジ賞 2014」受賞企画

2014年度の募集は、「社会課題にチャレンジ！」をテーマとし、ボランティアという概念から枠が広がり、6団体から7つのバリエーション豊富な企画の応募があった。取り組む活動テーマは国際協力、平和、震災、地域など多岐にわたった。

公開審査会を経て、以下の4プロジェクトが奨励金を受けて活動した。

2014年度受賞企画一覧

プロジェクト名	団体名
ボランティアサークル合同写真展・インタビュー小冊子	明治学院大学ボランティアセンター 地域活動 MGVA
フィリピン・パートナーシップ・プロジェクト	ハビタット MGU
冊子を作って陸前高田を知ってもらおう大作戦	明治学院大学ボランティアセンター 「Do for Smile @東日本」プロジェクト 陸前高田復興支援チーム
広報誌「TIMES」制作企画	NPO 法人 JUNKO Association

ボランティアファンド学生チャレンジ賞 2014
受賞企画 学生からの報告

冊子と写真で魅せるボランティア

プロジェクト名 ボランティアサークル合同写真展・インタビュー小冊子

団体名 明治学院大学ボランティアセンター 学生メンバー 地域活動 MGVA

MGVA (Meiji Gakuin Volunteer Association) では、ボランティアセンター・ボランティアサークル・一般生の3つのつながりを作り、学内でのボランティアを活性化させるための活動をおこなっている。

そして今回、この「ボランティアファンド学生チャレンジ賞」では、主に新生を対象にした2つの企画をおこなった。

1つ目は「インタビュー冊子作成」である。学内のボランティアサークル11団体の各代表者にインタビューをおこない、1つの冊子としてまとめた。昨年度作成した冊子「VCVC2014」では、1年生中心のインタビューを掲載したが、今回は学年間わすの形式となっている。各団体にはそれぞれサークルの魅力が伝えられる・サークルを表現できる写真を2~4枚程度提出してもらい、その写真について深く踏み込んでインタビューをおこなった。また、昨年度のインタビューに協力し、今回のインタビューにも参加していただいた方には「1年でどう変わったか」を聞くことで、よりサークル独自の魅力を引き出すことができた。



次に「写真展」である。「うちのサークルの魅力はこれだ！」をテーマに各団体から2枚ずつ写真を提出してもらい、A3サイズに印刷し、横浜校舎の図書館ゲート前に2週間にわたって展示した。展示された写真はインタビュー冊子の内容と繋がっているため、「この写真は何をしているのだろう」と興味を惹かせ、インタビュー冊子を読んで理解する、といった流れになっている。

なお冊子は、主にボランティアセンターや4月に実施したボランティアサークル合同説明会で配布され、作成した700部のうち、既に半数以上を新生や学生に配布することができた。また、「大変よかった」といった声もその後のアンケート調査で数多く寄せられた。写真展は8月のオープンキャンパスで出張展示を実施し、約360人の高校生に明治学院大学のボランティアの魅力を伝えることができた。

(法学部法律学科)

フィリピン・パートナーシップ・プロジェクト

プロジェクト名 フィリピン・パートナーシップ・プロジェクト

団体名 ハビタット MGU

企画概要

Philippine Partnership Project (PPP) では 2009 年から 10 年間にわたってフィリピン・マニラにある特定コミュニティの自律・活性化を支援している。主に現地の方が制作したクロスステッチ商品のフェアトレードと村内での企画を軸として活動しており、国内でのミーティングと年に 2 回現地を訪問することでプロジェクト向上に努めている。2015 年度は 13 名で 2 月 10 日から 25 日まで SNKI 村に滞在し、恒例行事となった FESTIVAL をより充実した内容とすべく、助成金を活用した。

村の恒例行事となった FESTIVAL を簡単に紹介したい。FESTIVAL の目的は SNKI 村に住む人が自分のコミュニティに感謝するきっかけをつくることであり、第 4 回となる 2015 年 2 月は「村人が FES を好きになること」という目標を立て、村で活動しているユースと一緒に企画や運営をおこなった。村人の憩いの場であるバスケットコートを利用し、浴衣などを使ったファッションコンテストや折り紙・書道といった日本文化を通じた交流をはじめ、豚汁・焼うどんなどの日本食を現地の方に販売した。当日は多くの村人の参加があり、会場は笑顔があふれ、活気づいていた。もっとも大きな成果は、私たちからのアプローチだけでなく村人同士がお互いに働きかけ交流する姿が見られたことだった。

本プロジェクトを進めていくにあたっては、苦悩の連続で、自分を見失ったり、うなされて眠れない日々を経験したりした。しかし、現地を訪問するたびに村人は私たちが優しく迎え入れてくれた。そして、最終的には PPP の活動が村の自律や活性化の一助となっていることを実感し、達成感を得ることができた。私たちはこのプログラムを誇りに思っている。

今後も 1 人でも多くのハビタット MGU メンバーに、愛と笑顔あふれる村を訪問してほしい。現在 3 年次生の私自身はハビタット MGU から引退したが、これからもプロジェクトの質の向上ならびに後輩の成長と飛躍をずっと応援していきたい。最後にボランティアファンド学生チャレンジ賞の助成に心から感謝する。



FESTIVAL を楽しむ村の子どもたち

(国際学部国際学科)

現地の方に寄り添う

プロジェクト名 冊子を作って陸前高田を知ってもらおう大作戦
団体名 明治学院大学ボランティアセンター 学生メンバー
「Do for Smile @東日本」プロジェクト 陸前高田復興支援チーム

企画概要

震災から4年以上が経過した現在、ボランティアの需要が変化し、震災の風化が進んでいる。私たちはこれからの活動を模索する中で、震災を風化させないこと、陸前高田の魅力を関東圏の人々に伝えることを目的に『ゆめ紀行』という冊子を発行することを決め、ボランティアファンド学生チャレンジ賞に応募した。

2016年3月11日で震災から5年が経過する。復興支援の活動に携わる中で、私たちは現地の方から多くのことを学ばせていただいた。冊子発行の目的には、陸前高田の方々に感謝を伝える意味も含まれていた。

どんな冊子にするかを検討する際に、意識したことは2つある。1つは、「陸前高田を訪れたことのある大学生だからこその内容」とすること。当初は2014年12月におこなったスタディツアーでお会いした現地の方々へのインタビューをまとめる冊子にする予定であった。しかし、話し合いを進めるうちに、その内容であれば私たちでなくても作成は可能だろうという意見が主流となった。そこで、改めて現地で活動してきた私たちにしか書けないことは何かを考え、その結果「もし、陸前高田を旅するなら」というテーマのもと、旅行雑誌のように旅先の魅力を伝える冊子にすることにした。次に意識したのは「震災について伝える」「陸前高田の魅力（人、特産物、観光資源）を知ってもらおう」の2つをバランスよく盛り込むことだった。何度もミーティングを重ね、最終的に陸前高田の現在（いま）について発信することができたと考えている。

そして2016年1月に1年生がおこなったスタディツアーの中で、お世話になっている方々に冊子をお渡しすることができた。現地の方に「ちょうどこんな冊子が欲しかったんですよ。陸前高田に、ただ被災地というイメージを持って帰る人たちが多くいます。」とおっしゃっていただけたことは一つの成果であったと感じる。同時に、ボランティアをする喜びに改めて気づくことができた。

この活動を通し、私たちはさまざまな変化を感じた。それは震災の風化だけでなく、目で見える景色の変化、目には見えない陸前高田の方々の心の変化だった。そして、これからの支援は現地の方々により一層寄り添い、その土地のことを一生懸命に考え、行動に移すことが大切だと学んだ。これからも関わってくださる皆様への感謝を忘れずに活動していきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

NPO の広報媒体を作ること

プロジェクト名 広報誌「TIMES」制作企画

団体名 JUNKO Association

企画概要

2015年度は JUNKO Association が設立されて 20 年の節目にあたる。ベトナム、ミャンマーで活動の範囲を広げ、新たな企画に着手するにあたり、これまで以上に多くの方に団体のことを知ってもらい、ご協力とご支援をいただくために、団体広報誌の発行を企画した。

明治学院大学公認団体兼 NPO 法人 JUNKO Association はベトナムとミャンマーの農村地域にて、子どもたちが教育を享受できる環境の創造を目指し、日々活動している。

団体の設立から 20 年目の今年は、あらゆる新たな試みが実施されている。ベトナムではこれまで活動してきた村に加え、新しく山岳地域での取り組みを始めた。また、ミャンマーでは活動先の小中高一貫公立校で、町で最も規模の大きい図書館の建設をおこなっている。

広報誌発行はこうした「新たな試み、取り組みをよりたくさんの人に知ってほしい！」という思いから生まれた企画であった。作成にあたってはアドバイザーとしてソニーマーケティング株式会社の広報・渉外部総括部長の谷口氏から貴重な助言をいただいた。特に「紙の広報媒体を作成するうえで重要なのは“どんな人に、何を読んでもらいたいのか”を意識することだ」とのアドバイスは、作成過程で私たちも実感したことだった。改めて作成の目的、読んで欲しい読者ターゲット、団体が最も押し出したい魅力について話し合った結果、国際協力団体にとっては活動こそが最も魅力的な商品になると考え、その商品をどう読者に読んでもらうのかについて工夫をした。

最終的に全 8 ページとなった広報誌は 6,000 部を印刷し、当団体と提携している高校や中学校、また国際協力系イベントを中心に配布している。NPO 法人が発行する広報媒体の作成は普段の学生生活では経験することのできない挑戦であり、学ぶことが多かった。中でも、手に取って読んでもらうための「魅力的なデザイン」や「戦略的レイアウト」が存在することを知る貴重な機会であったと感じている。今後もよりたくさんの方に読んでもらえるよう団体の活動に取り組んでいきたい。

(国際学部国際学科)

